

■ 資料

日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2018)

坂 中 正 義

(南山大学人文学部心理人間学科)

要約

本論文は、2018年に発表された、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストである。文献は、非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソンセンタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法等に関するものである。収録は「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」ごとに、A. 書籍、B. 研究論文、C. 学会発表、D. 翻訳、E. 海外文献紹介、F. 書評のジャンルに分けて行っている。

キーワード：来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソンセンタード・アプローチ、文献リスト

はじめに

筆者は、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチの研究および実践を振り返り、今後の発展のための課題探索の1つの手がかりを提供するため、次のような文献リストを作成した。

1. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト ―ロジャース選書及び全集― 九州大学心理臨床研究, 17,

113-121.

2. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(～1969) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 2, 9-31.
3. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(1970～1974) 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 81-88.
4. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(1975～1979) 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 89-98.
5. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(1980～1984) 福岡教育大学紀要(教職科編), 48, 195-214.
6. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(1985～1989) 福岡教育大学「教育実践研究」, 7, 115-132.
7. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(1990～1994) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 3, 13-51.
8. 坂中正義 2000 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(1995～1999) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 4, 13-55.
9. 坂中正義 2001 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2000) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 5, 23-56.
10. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2001) —第Ⅰ部: 来談者中心療法— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 51-68.
11. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2001) —第Ⅱ部: ベーシック・エンカウンター・グループ、第Ⅲ部: 体験過程療法・フォーカシング、第Ⅳ部: その他— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 69-85.
12. 坂中正義 2003 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2002) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 7, 1-22.
13. 坂中正義 2004 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2003) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 8, 31-50.
14. 坂中正義 2005 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2004) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 9, 17-36.
15. 坂中正義 2006 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2005) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 10, 1-24.
16. 坂中正義 2007 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2006) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 11, 1-20.
17. 坂中正義 2008 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2007) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 12, 1-24.
18. 坂中正義 2009 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2008) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 13, 9-29.

19. 坂中正義 2010 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2009) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 14, 27-50.
20. 坂中正義 2011 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2010) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 15, 29-50.
21. 坂中正義 2012 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2011) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 16, 1-20.
22. 坂中正義 2013 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2012) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 17, 1-23.
23. 坂中正義 2014 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト(2013) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 13, 231-255.
24. 坂中正義 2015 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト(2014) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 14, 231-255.
25. 坂中正義 2016 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト(2015) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 15, 105-134.
26. 坂中正義 2017 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト(2016) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 16, 111-139.
27. 坂中正義 2018 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト(2017) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 17, 97-130.

本論文では、これらの論文の続編として、2018年の日本におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストを作成する。また、これまでのリストに漏れていたものを追録する。

方法

2018年に発行されたパーソンセンタード・アプローチ関連の以下のようなキーワードが論じられている文献が収集された。

非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソン・センタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法、人間中心の教育等。

分類方法は、文献を「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」

「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」の4部に分類し、それぞれ、A. 書籍、B. 研究論文¹、C. 学会発表、D. 翻訳、E. 海外文献紹介、F. 書評に分けて収録した。さらに、各部分ごとに2018年の動向や代表的な文献を紹介した。

文献は、できるだけ手広く収集を努めたが、不備も予想される。それらについては、指摘をまとめて、今後の文献リストシリーズの中で、訂正、追加、補足したい。

第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング

「第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」には関連文献のうち、来談者中心療法、来談者中心遊戯療法、パーソンセンタード・セラピーといった個人カウンセリングや「自己一致」「共感的理解」「無条件の積極的関心」「アクティブリスニング」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2018年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」は3本で、そのうち1つが単行本であった。「B. 研究論文」は21本で、そのうち2つが特集であった。「C. 学会発表」は5本で、そのうち3つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」はなかった。「E. 海外文献紹介」はなかった。「F. 書評」は2本であった。

2018年の「来談者中心療法」の特徴は、ロジャーズとキリスト教の関連を論じたA-3やB-3が刊行されたことであろう。

A-3は、中核三条件に見出されるキリスト教的側面と各条件ごとに1章を割り当て、丁寧に論じている。

B-3は、ロジャーズのキリスト教からの離脱と臨床哲学の確立について論じている。中でもキリスト教の関連からみたロジャーズの歩みをまとめた年表は興味深い。同著者による関連資料としてのB-4も貴重である。

これらの文献はこれまであまりみられなかった、人としてのロジャーズをキリスト教の側面から理解する試みとして、貴重なものといえよう。

なお、2018年は「心理臨床学研究」に1本(F-2)、「人間性心理学研究」に1本(B-7)、関連文献が掲載された。

A. 書籍

1. 中田行重 2018 ヒューマニスティック・アプローチ 野島一彦・岡村達也 編「臨床心理学概論(公認心理師の基礎と実践 第3巻)」遠見書房, 第7章, 88-98.
2. 末武康弘 2018 心理学的支援法: カウンセリングと心理療法の基礎 誠信

¹ 研究論文には便宜上、ニュースレター等も含めている。

書房, 64-93.

第6章 心理学的支援法の主要理論(その1) —心理学的支援法の基礎としてのパーソンセンタードセラピー—

第7章 心理学的支援法の主要理論(その2) —パーソンセンタードセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピー—

3. 鶴田一郎 2018 C.R.ロジャーズの「カウンセラーの中核三条件」におけるキリスト教的側面 大学教育出版

第1章 C.R.ロジャーズのカウンセラーの中核三条件におけるキリスト教的側面—(1)「自己一致」について—

第2章 C.R.ロジャーズのカウンセラーの中核三条件におけるキリスト教的側面—(2)「無条件の肯定的尊重」について—

第3章 C.R.ロジャーズのカウンセラーの中核三条件におけるキリスト教的側面—(3)「共感的理解」について—

B. 研究論文

1. 石井要子 2018 理事長あいさつ カウンセリング, 50(1), 2-3.
2. 伊藤義美 2018 講演 私とパーソンセンタード・アプローチ (PCA) カウンセリング, 50(1), 37-54.
3. 泉野淳子 2018 ロジャーズにおけるキリスト教からの離脱と臨床哲学の確立 心理学史・心理学論, 18/19, 15-30.
4. 泉野淳子 2018 ユニオン神学校におけるロジャーズの履修記録 心理学史・心理学論, 18/19, 61-66.
5. 本山智敬 2018 私が心理臨床の仕事をする理由: 来談者中心療法 心理臨床の広場, 21, 40.
6. 中村忠生 2018 カール・ロジャーズに学んで カウンセリング, 50(1), 32-35.
7. 並木崇浩 2018 パーソン・センタード・セラピストが哲学する'意義—beingとセラピストの自己の利用の観点から— 人間性心理学研究, 36(1), 69-77.
8. 成田小百合 2018 パーソン・センタード・アプローチの治療関係からみた『くまとやまねこ』新島学園短期大学子ども学研究論集, 2, 75-83
9. 日本学生相談学会広報委員会編 2018 特集: 岩村 聡先生を偲ぶ 日本学生相談学会会報「学生相談ニュース」, 119, 1-4.
生涯現役を貫かれた岩村先生 (田中宏尚)
岩村聡先生との思い出 (小澤和弘)
岩村先生に導かれて (大島啓利)
10. 大島啓利 2018 岩村先生に導かれて 日本学生相談学会会報「学生相談ニュース」, 119, 3-4.
11. 大島利伸 2018 中部部会活動報告 日本人間性心理学会ニュースレター,

92, 2-3.

12. 小澤和弘 2018 岩村聡先生との思い出 日本学生相談学会会報「学生相談ニュース」, 119, 2-3.
13. 龍門ヒサノ 2018 中村忠生さんを囲んで—グループでの話し合い— カウンセリング, 50(1), 35-36.
14. 櫻井ひろみ 2018 ベーシック・エンカウンター・グループ (BEG) に身を置くということ カウンセリング, 50(1), 17-27.
15. 清水幹夫 2018 理論学習 カール・ロジャーズの「パーソナリティと行動についての理論」 カウンセリング, 50(1), 4-16.
16. 田中宏尚 2018 生涯現役を貫かれた岩村先生 日本学生相談学会会報「学生相談ニュース」, 119, 1-2.
17. 漆野陽子 2018 カール・ロジャーズに学んで—私のカウンセリング— カウンセリング, 50(1), 28-31.
18. 山田俊介 2018 受容及び無条件の肯定的配慮の意味についての考察—カール・ロジャーズのとらえ方の変化をもとにして— 香川大学教育学部研究報告 第1部, 149, 93-110.
19. 吉本栄子 2018 漆野陽子さんのグループに参加して カウンセリング, 50(1), 31-32.
20. 全日本カウンセリング協議会編 2018 特集：第24回二級カウンセラー研修会 カウンセリング, 50(1), 1-54.
第24回二級カウンセラー研修会
理事長あいさつ (石井要子)
理論学習 カール・ロジャーズの「パーソナリティと行動についての理論 (清水幹夫)
<一級カウンセラー取得者ミニ講演>
ベーシック・エンカウンター・グループ (BEG) に身を置くということ (櫻井ひろみ)
<二級カウンセラー資格取得者による体験発表>
カール・ロジャーズに学んで (漆野陽子)
漆野陽子さんのグループに参加して (吉本栄子)
カール・ロジャーズに学んで (中村忠生)
中村忠生さんを囲んで—グループでの話し合い— (龍門ヒサノ)
講演 私とパーソンセンタード・アプローチ (PCA) (伊藤義美)
21. 全日本カウンセリング協議会編 2018 第24回二級カウンセラー研修会 カウンセリング, 50(1), 1.

C. 学会発表

1. 泉野淳子 2018 「必要十分条件」論文 (C.R.Rogers, 1957) の再々検討—9—

～ロジャーズはアメリカのニーチェである～ 日本心理学会第82回大会プログラム, 73.

2. 森川友子・只松正基・富田香葉・梅田晃希 2018 Carl Rogersの応答を再検討する—フォーカシングの立場からみたその機能— 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 63.
3. 日本心理臨床学会(第37回大会) 2018 自主シンポジウム:PCAへのこだわり・PCAからの出立—各人各様の歩みや展望をもとに— 日本心理臨床学会第37回大会発表論文集, 489.
企画者・司会者(園田雅代)
話題提供者(園田雅代・小野京子・林もも子・三浦亜子・下田節夫)
指定討論者(飯長喜一郎)
4. 日本心理臨床学会(第37回大会) 2018 自主シンポジウム:パーソンセンタード・アプローチのさらなる発展のための対話 日本心理臨床学会第37回大会発表論文集, 484.
企画者・司会者(坂中正義)
話題提供者(青木 剛・大島利伸・加藤敬介)
指定討論者(松本 剛)
5. 日本心理臨床学会(第37回大会) 2018 自主シンポジウム:治療的アセスメントについて考える(その8) —クライアント中心のヒューマニスティックな心理アセスメントの可能性— 日本心理臨床学会第37回大会発表論文集, 481.
企画者・司会者(田澤安弘)
話題提供者(田澤安弘・橋本忠行)
指定討論者(小林孝雄)

D. 翻訳

[該当文献なし]

E. 海外文献紹介

[該当文献なし]

F. 書評

1. 近田輝行 2018「坂中正義編著 田村 隆一・松本 剛・岡村達也 2017『傾聴の心理学: PCAをまなぶ—カウンセリング/フォーカシング/エンカウンター・グループ—』創元社」The Focuser's Focus, 21(1), 5-6.
2. 諸富祥彦 2018「坂中正義編著 田村 隆一・松本 剛・岡村達也 2017『傾聴の心理学: PCAをまなぶ—カウンセリング/フォーカシング/エンカウンター・グループ—』創元社」心理臨床学研究, 35(6), 668-669.

付：同リスト（～2017）

「第Ⅰ部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」の追録

A. 書籍

1. 青木羊耳 2017 新・ほんものの相談—気づきからやる気まで— 文芸社
 - I. ラポール
 - II. 主訴
 - III. 受容
 - IV. 共感
 - V. 一致
 - VI. 働きかけ
 - VII. 見立て
 - VIII. 行動変容
 - IX. 人生シナリオ

B. 研究論文

1. 野島一彦 2014 佐治守夫の三編について 精神療法, 増刊1, 63-64.
2. 下山晴彦 2014 Re-Comment 精神療法, 増刊1, 65-66.
3. 山田俊介 2016 共感的理解の意味についての考察—カール・ロジャーズの
とらえ方の変化をもとにして— 香川大学教育学部研究報告 第1部, 145, 13-
30.

C. 学会発表

〔該当文献なし〕

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

1. 下山晴彦 2014 佐治守夫の三編：先達から学ぶ精神療法の世界 精神療法,
増刊1, 57-62.

第Ⅱ部：体験過程療法・フォーカシング指向心理療法

「第Ⅱ部：フォーカシング指向心理療法・体験過程療法」には関連文献のう

ち、体験過程療法やフォーカシング、フォーカシング指向心理療法、「体験過程」「フェルトセンス」「シフト」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2018年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」はなかった。「B. 研究論文」は65本で、そのうち2つが特集であった。「C. 学会発表」は8本で、そのうち3つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」は2本であった。「E. 海外文献紹介」は1本であった。「F. 書評」はなかった。

2018年における「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の特徴は、ジェンドリン追悼特集であるB-40、日本フォーカシング協会発足20周年特集のB-39が刊行されたことであろう。

ジェンドリンは2017年5月1日に90歳で亡くなった。B-40は追悼特集である。多くの方が氏への想いや思い出を記している。このことから彼が、わが国においても多大な影響を与えたことが伺える。謹んで哀悼の意を表する。

B-39は、日本フォーカシング協会発足20周年の特集記事である。同協会は日本におけるフォーカシングの発展、深化に大きく貢献してきた。後述の様に同協会のニューズレター「The Focuser's Focus」は、毎年多くの関連文献を発表しており、文献的にもその貢献は大きい。そして、これからもその役割を担いつつ、さらなる展開をもたらすものと期待している。

なお、2018年は「心理臨床学研究」に1本(B-52)、「人間性心理学研究」に14本(B-6、B-8、B-13、B-15、B-16、B-17、B-22、B-29、B-30、B-31、B-49、B-54、B-56、B-63)、関連文献が掲載された。また、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の文献は、日本フォーカシング協会ニューズレター「The Focuser's Focus」にコンスタントに発表されている。

A. 書籍

〔該当文献なし〕

B. 研究論文

1. A.S 2018 希望の物語：フォーカシングの贈り物 The Focuser's Focus, 20(4), 8-9.
2. ある参加者 2018 フォーカシングをしたあくる日から、心がとてもスガスガしくて、元気でした。 The Focuser's Focus, 21(2), 13-14.
3. 浅川裕子 2018 フォーカサーの集い 2018 in にいがた に参加して The Focuser's Focus, 21(2), 7.
4. 近田輝行 2018 7年ぶりの集い・14年ぶりの万代市民会館 The Focuser's Focus, 21(2), 6-7.
5. 土井晶子 2018 新潟人の密かなたくらみ～お米・おさかな・美酒の夕べ～ The Focuser's Focus, 21(2), 5.

6. 福田尚法・森川友子 2018 キャリアカウンセリングにおけるフォーカシングの活用—大学生への就職活動支援を例に— 人間性心理学研究, 35(2), 171-182.
7. 長谷川 晃 2018 希望の物語：フォーカシングの贈り物 The Focuser's Focus, 20(4), 6-7.
8. 橋本忠行・坂中正義・久蔵孝幸 2018 治療的アセスメントの「まとめと話し合いのセッション」におけるクライアントの体験—EXPスケール、SEQ-5、AQ-2による5事例の分析— 人間性心理学研究, 36(1), 79-91.
9. 日笠摩子 2018 2018 ユージン・ジェンドリン&フォーカシング&日本 (3) : 第1回フェルトセンス会議報告：ジェンドリン哲学の理解と橋渡しのために The Focuser's Focus, 21(2), 12-14.
10. 樋浦太志 2018 2018年度 日本フォーカシング協会 年次大会～フォーカサーの集い in 新潟～「第5報」 The Focuser's Focus, 21(2), 2.
11. 堀尾直美 2018 日本フォーカシング協会の成り立ちと発展：感謝を込めて、そしてこれからも The Focuser's Focus, 20(4), 1-5.
12. 星野茂実 2018 2018年度 日本フォーカシング協会 年次大会～フォーカサーの集い in 新潟～「第5報」 The Focuser's Focus, 21(2), 3.
13. 池見 陽 2018 ユージン・ジェンドリンのレガシー—ジーンが僕に残してくれたもの— 人間性心理学研究, 36(1), 1-6.
14. 石倉 篤 2018 Tグループの参加者の自己探求に関するモデルの提示—反省的思考理論と体験過程理論を援用して— 関西大学博士論文
15. 石倉 篤 2018 Tグループにおける個人プロセスのフェーズ—自己探求が深まりフェルトシフトを体験した参加者の事例の検討— 人間性心理学研究, 35(2), 183-195.
16. 伊藤研一 2018 通奏低音としての「統合」 人間性心理学研究, 35(2), 221-228.
17. 伊藤義美 2018 ジェンドリンとの、そのときどきの思い出 人間性心理学研究, 36(1), 10-12.
18. 河原 円 2018 ドメイン・フォーカシングのオンライン講義 The Focuser's Focus, 21(1), 6-8.
19. 河崎俊博・岡村心平・田中秀男・越川陽介・三木健郎 2018 保育者を対象としたフォーカシング研修の検討—フォーカシングの観点から日常の保育実践をより豊かに理解する試み— 関西大学心理臨床センター紀要, 9, 69-81.
20. 吉良安之 2018 セラピスト・フォーカシングに関するこれまでの研究と学生相談にとつての意義 九州大学学生相談紀要・報告書, 4, 51-63.
21. 小池弘実 2018 酒屋の娘と言われて The Focuser's Focus, 21(2), 3.
22. 小坂淑子 2018 中学生におけるフォーカシング的態度—精神的健康との関連及びバウムテストへの現れ方— 人間性心理学研究, 35(2), 155-169.

23. 越川陽介 2018 懇親会でのひと時 The Focuser's Focus, 21(2), 5.
24. 李明 2018 国際交流コーナー：三つのレベルの身体知—フォーカシングとマインドフルネス修行の交差— The Focuser's Focus, 20(4), 24-29.
25. まり 2018 希望の物語：フォーカシングの贈り物 The Focuser's Focus, 20(4), 5-6.
26. みかん 2018 小さな死と再生の物語 The Focuser's Focus, 20(4), 9-11.
27. 宮本光代 2018 フォーカシング・サンガ京都の参加者の感想 The Focuser's Focus, 21(2), 13.
28. 宮野由紀 2018 栄養相談に活かすフォーカシング The Focuser's Focus, 20(4), 15-16.
29. 諸富祥彦 2018 ジェンドリンが遺してくれたものを展開させる責任 人間性心理学研究, 36(1), 13-14.
30. 村里忠之 2018 ジェンドリンとメアリー 人間性心理学研究, 36(1), 17-19.
31. 村山正治 2018 日本におけるフォーカシング発展に貢献したジェンドリン博士に感謝 人間性心理学研究, 36(1), 7-9.
32. N.k.O 2018 わたしになる The Focuser's Focus, 20(4), 12.
33. 長嶋宏美 2018 子どもとフォーカシング：JCFA主催「子ども虐待対応の支援者のための研修会」に参加して The Focuser's Focus, 21(1), 9-11.
34. 中西一恵 2018 フォーカシング理論セミナーに参加して The Focuser's Focus, 21(2), 4-5.
35. 中村匡男 2018 フォーカサーの集い 2018 in にいがたに参加して The Focuser's Focus, 21(2), 6.
36. 中西一恵 2018 第2回フォーカシング理論セミナーを終えて The Focuser's Focus, 21(2), 4.
37. 鳴海明敏 2018 青森県立保健大学でのフォーカシング講座について The Focuser's Focus, 20(4), 16-17.
38. 鳴海明敏 2018 池見陽先生の公開講座について The Focuser's Focus, 21(2), 4.
39. 日本フォーカシング協会編 2018 特集：日本フォーカシング協会発足20周年記念企画 The Focuser's Focus, 20(4), 1-12.
 第1部 日本フォーカシング協会の成り立ちと発展：感謝を込めて、そしてこれからも（堀尾直美）
 第2部 希望の物語：フォーカシングの贈り物（まり・長谷川 晃・上村英生・大田民雄・A.S.・みかん・田村隆一・N.k.O）
40. 日本人間性心理学会編 2018 特集：追悼 ジェンドリン—人生と哲学、出会い— 人間性心理学研究, 36(1), 1-19.
 ユージン・ジェンドリンのレガシー—ジーンが僕に残してくれたもの—（池見陽）

日本におけるフォーカシング発展に貢献したジェンドリン博士に感謝 (村山正治)

ジェンドリンとの、そのときどきの思い出 (伊藤義美)

ジェンドリンが遺してくれたものを展開させる責任 (諸富祥彦)

ジェンドリン—そのダイアフィルス— (末武康弘)

ジェンドリンとメアリー (村里忠之)

41. 野入真美 2018 フォーカシング理論セミナーに参加して The Focuser's Focus, 21(2), 5-6.
42. 小田大輔 2018 PCAGIP法の一部を会議に使う The Focuser's Focus, 20(4), 17-18.
43. 大迫久美恵 2018 研究者の数珠つなぎ：解離とフォーカシング指向心理療法と、私 The Focuser's Focus, 21(2), 7-8.
44. 大田民雄 2018 希望の物語：フォーカシングの贈り物 The Focuser's Focus, 20(4), 8.
45. 太田嘉和 2018 2018年度 日本フォーカシング協会 年次大会～フォーカサーの集い in 新潟～「第5報」 The Focuser's Focus, 21(2), 2-3.
46. 大月かおり 2018 フォーカシング・サンガ京都に参加しました The Focuser's Focus, 21(2), 13-14.
47. 岡村心平 2018 研究者の数珠つなぎ：「謎かけ」をめぐる冒険～村上春樹とフォーカシングの交差～ The Focuser's Focus, 20(4), 18-23.
48. 岡村 翼 2018 おかしな出会いに感謝して～月とのフォーカシング～ The Focuser's Focus, 21(1), 8.
49. 酒井久実代 2018 フェルトセンスの言語化を含めたフォーカシング的態度が感情経験を介して精神的健康に及ぼす影響の検討 人間性心理学研究, 35(2), 197-207.
50. 酒井久実代 2018 ピアによるフォーカシング指向カウンセリングの実践の試み The Focuser's Focus, 21(1), 11.
51. 酒井久実代・河崎俊博・池見 陽 2018 フェルトセンスの象徴化を含めたフォーカシングの態度の測定—因子構造、性差、および精神的健康の因果モデルによる検討— 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 7, 9-18.
52. 櫻本洋樹 2018 セラピストが自身のフェルトセンスに開かれたあり方の治療的意義 心理臨床学研究, 36(4), 419-430.
53. 白岩紘子 2018 子どもとフォーカシング：「からだところへの気づき」のワーク The Focuser's Focus, 21(2), 12-13.
54. 末武康弘 2018 ジェンドリン—そのダイアフィルス— 人間性心理学研究, 36(1), 15-16.
55. 田村隆一 2018 不安とともに生きるという希望 The Focuser's Focus,

- 20(4), 11-12.
56. 田中秀男 2018 “この感じ”という直接参照—フォーカシングにおける短い沈黙をめぐって— 人間性心理学研究, 35(2), 209-219.
 57. 田中秀男 2018 研究者の数珠つなぎ：フォーカシング成立の背景：ロジャーズ門下の「兄弟子」からの影響を中心に The Focuser's Focus, 21(2), 10-11.
 58. 田中秀男 2018 フォーカシングの成立と実践の背景に関する研究—その創成期と体験過程理論をめぐって— 関西大学博士論文
 59. 勅使河原真弓 2018 子どもとフォーカシング：乳幼児検診とフォーカシング The Focuser's Focus, 21(2), 4.
 60. 筒井健雄 2018 ユージン・ジェンドリン&フォーカシング&日本 (1)：ジーンとの「心と身体」についての21年前の応答 The Focuser's Focus, 21(1), 12-14.
 61. 上村英生 2018 希望の物語：フォーカシングの贈り物 The Focuser's Focus, 20(4), 7-8.
 62. 山本美保 2018 超びっとフォーカシング：連載「超びっとフォーカシング」を終了するにあたって The Focuser's Focus, 21(2), 6-7.
 63. 矢野キエ 2018 体験はいかに進展するか—フェルトセンスとシンボルの相互作用について— 人間性心理学研究, 36(1), 45-56.
 64. 吉田 言 2018 フェルトセンスとは、一体何だろう？ The Focuser's Focus, 21(2), 5-6.
 65. 吉澤幸子 2018 2018年度 日本フォーカシング協会 年次大会～フォーカサーの集い in 新潟～「第5報」 The Focuser's Focus, 21(2), 2.

C. 学会発表

1. 永野勇二 2018 描画フォーカシングで人格変化が生じたと思われる2事例—箱イメージ書き込み描画法などを用いて— 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 42.
2. 日本人間性心理学会第37回大会 2018 自主企画：Gendlinの理論を基盤とした人間性心理学的認知モデルの検討—基礎心理学と人間性心理学の交差Ⅲ— 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 95.
企画者（宮田周平）
話題提供者（久羽 康）
指定討論者（上田紋佳・藤木大介・榎本光邦）
3. 日本人間性心理学会第37回大会 2018 自主企画：フォーカシング指向心理療法（FOT）模擬面接記録からのFOTと人間性心理学的アプローチの独自性と共通性の探求 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 97.
企画者（青木 剛・平野智子）

司会者(河崎俊博)

模擬面接事例提供者(内田利広・星加博之・小泉隆平)

指定討論者(田中秀男・橋本忠行・中田行重)

4. 日本人間性心理学会第37回大会 2018 自主企画:ジェンドリンの「交差」概念を多面的に検討する—生命体における交差現象から言葉と状況との交差まで— 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 98.
企画者・話題提供者(高橋寛子・村里忠之)
5. 酒井久実代 2018 ピアによるフォーカシング指向カウンセリングの効果の検討 日本心理臨床学会第37回大会発表論文集, 97.
6. 上西裕之 2018 自己安定化尺度の作成と精神的回復力およびフォーカシング的態度のとの関連 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 60.
7. 上蘭俊和 2018 奨励賞受賞記念講演:「こころの天気」描画法の心理的变化と可能性 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 28.
8. 梅野智美 2018 子どもからみた親の養育態度の評価とフォーカシング的態度の関連の検討 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 51.

D. 翻訳

1. Gendlin, E.T. (日笠摩子訳) 2018 ユージン・ジェンドリン&フォーカシング&日本(2):ジーンとの「心と身体」についての21年前の応答 The Focuser's Focus, 21(1), 14-18.
2. Moore, J. (川崎直樹訳) 2018 世界のフォーカシング(14) 英国におけるフォーカシングとPCA—PCAの視点から見た英国(U.K.)のフォーカシングとヨーロッパ・フォーカシング・ネットワークの発展— The Focuser's Focus, 21(2), 9-12.

E. 海外文献紹介

1. 土井晶子・高橋紀子 2018 “Omidian, P.A. 2017 Reaching Resilience: A Training Manual for Community Wellness.” 日本人間性心理学会ニュースレター, 92, 5.

F. 書評

[該当文献なし]

付:同リスト(～2017)

「第Ⅱ部:体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の追録

A. 書籍

[該当文献なし]

B. 研究論文

1. 平野智子 2010 セラピスト・フォーカシングを応用した対人援助支援の研究 関西大学カウンセリングルーム紀要, 1, 39-46.
2. 平野智子 2010 セラピスト・フォーカシングでは新しいクライアント理解はどのように生じるのか—体験過程理論からの考察— 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 6, 75-85.
3. 池見 陽・矢野キエ・辰巳朋子・三宅麻希・中垣未知代 2006 ケース理解のためのセラピスト・フォーカシング:あるセッションの記録からの考察 神戸女学院大学大学院人間科学研究科「ヒューマンサイエンス」9, 1-13.
4. 伊藤研一・山中扶佐子 2005 セラピスト・フォーカシングの過程と効果 学習院大学人文科学研究所「人文」, 4, 165-176.
5. 伊藤研一 2006 試行カウンセリングのケースに適用したセラピスト・フォーカシング 学習院大学文学部研究年報, 53, 209-228.
6. 伊藤研一 2007 フォーカシングにおける危機的状況での臨床動作法の意義 学習院大学文学部研究年報, 52, 201-210.
7. 伊藤研一 2009 臨床動作法とフォーカシングを組み合わせた技法の試み 臨床動作学研究, 13, 25-34.
8. 吉良安之 2007 セラピストフォーカシング法の開発に関する研究 平成16年度～平成18年度科学研究費補助金(萌芽研究)研究成果報告書
9. 吉良安之・兒山志保美 2006 セラピスト体験の自己吟味過程—セラピスト・フォーカシングの1セッション 九州大学学生生活・修学相談室紀要「学生相談」, 7, 55-65.
10. 永野勇二 2011 大学の授業でフォーカシングを教える試み 常盤大学人間科学部紀要, 29(1), 69-78.
11. 田中秀男 2005 ジェンドリンの初期体験過程理論に関する文献研究(下):心理療法研究におけるディルタイ哲学からの影響 明治大学図書館紀要「図書の譜」9, 58-87.
12. 田中秀男 2014 そもそも「象徴化」とは?—「象徴化は必ずしも必要か」の議論の前に— 第1回TAE質的研究国際シンポジウム報告書, 98-103
13. 徳田完二 2014 遠隔地からの震災支援のこれまでとこれから—セラピスト・フォーカシングによる支援者支援を中心に— 京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター紀要, 18, 51-53.

C. 学会発表

1. 日本人間性心理学会(第21回) 2002 ラウンドテーブル:人間性心理学と精

神分析の対話—セラピストの〈感じ〉とあり方をめぐって— 日本人間性心理学会第21回大会

吉良安之・佐野直哉・伊藤研一

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

〔該当文献なし〕

第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ

「第Ⅲ部:ベーシック・エンカウンター・グループ」には関連文献のうち、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソン・センタード・アプローチなどのパーソンセンタードなオリエンテーションにもとづくグループ・アプローチ、「ファシリテーター」「グループ・プロセス」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した²。

2018年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」は1本であった。「B. 研究論文」は4本であった。「C. 学会発表」は8本で、そのうち1つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」はなかった。「E. 海外文献紹介」はなかった。「F. 書評」はなかった。

2018年における「ベーシック・エンカウンター・グループ」の特徴は、そもそも文献の少なさが上げられる。発行された文献の中では、ラージ・グループの事例研究であるB-2が刊行されたことであろう。近年研究として取り上げられることが少なかったラージ・グループについての事例を提示し、そこでみられるメンバーの自発的な動きと自然発生的な構造化について考察した意欲的な研究である。述べられた知見はカウンセリング・ワークショップやコミュニティ・ミーティングなどの理解を助ける手がかりとなりうる貴重な研究といえよう。

なお、2018年は「人間性心理学研究」に1本（B-2）、関連文献が掲載された。

A. 書籍

1. 坂中正義 2018 グループ・アプローチ 野島一彦・岡村達也編「臨床心理学概論（公認心理師の基礎と実践 第3巻）」遠見書房, 第9章, 113-126.

² なお、体験過程療法に特化したグループ・アプローチは、第Ⅱ部へ収録されている。

B. 研究論文

1. 引土絵未・岡崎重人・加藤 隆・山本 大・山崎明義・松本俊彦 2018 治療共同体エンカウンター・グループの効果とその要因について 日本アルコール・薬物医学会雑誌, 53(2), 83-94.
2. 金子周平 2018 ラージ・グループにみられる構造化とメンバーの自発性 人間性心理学研究, 36(1), 33-44.
3. 日本人間性心理学会編 2018 日本人間性心理学会九州部会の活動報告 日本人間性心理学会ニュースレター, 91, 2.
4. 浦野陽子・山本眞利子 2018 保育士におけるストレングスカードを用いたエンカウンター・グループの試み 久留米大学文学部心理学科・大学院心理学研究科紀要「久留米大学心理学研究」, 17, 1-13.

C. 学会発表

1. 今別府哲志 2018 仲間関係を中心としたリーダーズ・エンカウンター・グループの試み 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 52.
2. 石田妙美・本山智敬・大島利伸・大下智子・法眼裕子・松本 剛・人間関係研究会 2018 学生が参加してみたいと思うエンカウンター・グループ 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 40.
3. 金子周平・田中将司・堂園安奈・平井もも・森 陽平 2018 ベーシック・エンカウンター・グループのファシリテーター訓練の効果：非無作為化試験 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 80.
4. 三浦文子 2018 セッションの流れをとめてしまった大学生対象の構成的エンカウンター・グループ 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 46.
5. 日本人間性心理学会第37回大会 2018 自主企画：EG カフェに参加しませんか in 人間環境大学 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 96.
企画者・ファシリテーター（法眼裕子・大下智子）
6. 西野秀一郎 2018 継続型ベーシック・エンカウンター・グループにおける初めてのファシリテーションの考察 日本心理臨床学会第37回大会発表論文集, 147.
7. 西野秀一郎 2018 自己生成プロセスワーク体験の検討 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 62.
8. 大橋佳奈 2018 ベーシック・エンカウンター・グループ体験の報告と考察 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 65.

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

[該当文献なし]

F. 書評

[該当文献なし]

付：同リスト（～2017）

「第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」の追録

A. 書籍

[該当文献なし]

B. 研究論文

[該当文献なし]

C. 学会発表

[該当文献なし]

D. 翻訳

[該当文献なし]

E. 海外文献紹介

[該当文献なし]

F. 書評

[該当文献なし]

第Ⅳ部：その他

「第Ⅳ部：その他」には関連文献のうち、親子関係・家庭生活、教育・学習（学生中心の教授法や人間中心の教育など）等の来談者中心のオリエンテーションの広がりやその基礎概念、歴史、人物等、また、表現療法などのこれまでの3部には分類されないものを収録した。

2018年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」はなかった。「B. 研究論文」は3本であった。「C. 学会発表」は8本で、そのうち2つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」はなかった。「E. 海外文献紹介」はなかった。「F. 書評」はなかった。

2018年における「その他」の特徴は、その大半がPCAGIPに関わるものであったことであろう。また、C-2やC-7といったPCA関係者によるオープンダイア

ログ関連の発表も2018年と特徴といえよう。

なお、2018年は「人間性心理学研究」に1本(B-3)、関連文献が掲載された。

A. 書籍

[該当文献なし]

B. 研究論文

1. 小田大輔 2018 超びっとフォーカシング：PCAGIP法の一部を会議に使う2
The Focuser's Focus, 21(1), 9.
2. 小野真由子 2018 PCAGIP法の実践における書記の工夫と今後の課題 関
西大学心理臨床センター紀要, 9, 23-28.
3. 筒井優介 2018 夢PCAGIPにおいて意味はどのように成立しているのか—
ある妊婦の夢を実例として— 人間性心理学研究, 36(1), 21-31.

C. 学会発表

1. 石倉 篤・清澤亜希子・田中雄大・原田祐奈・堀川優依 2018 若手心理臨
床家の指定大学院修了後の歩み—変化・成長をめぐるPCAGIPを通じた探索
的試み— 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 47.
2. 本山智敬・高松 里・村久保雅孝・永野浩二・村山正治 2018 日本における
オープンダイアログの今後の可能性—フィンランドでの視察研修からの検
討— 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 68.
3. 内藤裕子 2018 PCAGIPのエンパワメント効果—被災地の養護教諭を対象
として— 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 86.
4. 成田有子 2018 産業領域で行うPCAGIPマネ・ピカ〜マネージャーどおし
の内省的対話をもたらすもの〜 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・
発表論文集, 41.
5. 日本人間性心理学会第37回大会 2018 自主企画：レジリエンスを高める：
コミュニティウェルネス・トレーニングマニュアル 日本人間性心理学会第37
回大会プログラム・発表論文集, 94.
企画者（高橋紀子）
司会者（高橋紀子）
話題提供者（飯嶋秀治・井手智博・金子周平・松本 剛・森川友子）
6. 日本人間性心理学会第37回大会 2018 自主企画：PCAGIP法・ファシリテー
ター論・実践上の工夫 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論
文集, 98.
企画者（村山正治・並木崇浩・南 曜子）
話題提供者（渡辺 隆・押江 隆・岩淵匡彦・南 曜子）
指定討論者（兒山志保美・小野真由子）

7. 大石英史・本山智敬・村山正治 2018 オープンダイアログとパーソンセンタード・アプローチが会おうところに何が生まれるか 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 55.
8. 小野真由子 2018 事例提供者のPCAGIP体験のプロセス—1年後のインタビュー調査から— 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 59.

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

〔該当文献なし〕

付：同リスト（～2017）「第Ⅳ部：その他」の追録

A. 書籍

1. 近藤千恵監修 2004 介護手帖—ふれあいコミュニケーション・リーダーの活躍— 親業訓練協会
 - I. 介護の基本はふれあいコミュニケーション
 - II. 介護とは気持ちをわかること
 - III. 介護者の気持ちを伝える—わたしメッセージ—
 - IV. 介護に有効な環境改善
 - V. 価値観の対立
 - VI. 活躍するふれあいコミュニケーション・リーダー
 - VII. ふれあいコミュニケーション・リーダーの資格について
 - VIII. おわりに
2. 近藤千恵監修 2004 保育手帖—今、保育にかかわるあなたに— 親業訓練協会
 - I. 心の通い合う保育を求めて
 - II. 子どもの気持ちを受けとめる
 - III. 「わたしメッセージ」で保育者自身の気持ちを伝える
 - IV. 「勝負なし法」で解決する
 - V. 環境を改善しよう
 - VI. 保育者の価値観を伝えよう—「勝負なし法」で解決もしないときに—
 - VII. 保育者と親とがともに学び実践する

Ⅷ. こんなところにも「親業」「教師学」が役立つ

3. 近藤千恵 2007 理由ある反抗—子どものホンネを見のがさないために—
みくに出版

- 第1章 いまなぜ親業か？
第2章 心の扉を開く「受動的な聞き方」
第3章 子どもの心をつかむ「能動的な聞き方」
第4章 あなたメッセージから「わたしメッセージ」へ
第5章 「勝負なし法」で対立を解く
第6章 勝負なし法の注意点
第7章 変えられるものと変えられないもの
終章 自分らしく生きるとは？

B. 研究論文

[該当文献なし]

C. 学会発表

[該当文献なし]

D. 翻訳

[該当文献なし]

E. 海外文献紹介

[該当文献なし]

F. 書評

1. 伊藤義美 2015 「Cooper, M. & McLeod, J. (末武康弘・清水幹夫監訳) 2015 『心理臨床への多面的アプローチ—効果的なセラピーの目標・課題・方法—』 岩崎学術出版社」心理臨床学研究, 36(2), 182-183.

統計

2018年に発行された文献、及び追録された文献を先述の坂中（2004）に従い分類した。その結果を以前のデータと共にTableに示した。2018年に公刊された関連文献は110篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」26篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」76篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」5篇、「その他」3篇）であった³。

³ 学会発表は合計に含まれていない。

よって、これまでに日本で公刊された関連文献は8030篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」3548篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」2274篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」1851篇、「その他」357篇）となった。

お願い

リストに収録した文献の記述上の誤りを見つけられた方、また、該当する文献を執筆された方、もれている文献を御存知の方は、筆者まで御連絡願えれば幸いです。

連絡先 〒466-8673 愛知県 名古屋市昭和区山里町18
南山大学 人文学部 坂中正義
E-mail:sakanaka@nanzan-u.ac.jp
Fax: 052-832-3110 (ダイヤルイン) 3955

Table 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する発行文献数 (2019.02.05現在)

	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	00-04	05-09	10-14	2015	2016	2017	2018	合計	
来訪者中心療法	2	7	13	35	14	15	13	9	20	15	8	14	4	6	0	3	1	179	
パーソンセンタード・カウンセリング (含: 基礎概念)	3	5	9	27	47	43	48	20	111	118	53	35	44	1	0	0	2	566	
遊戯療法も含む	0	0	0	1	2	9	19	15	3	11	13	15	8	1	1	0	2	109	
論文: 一般	0	5	91	68	67	114	149	229	186	317	347	280	251	43	17	35	19	2218	
翻訳: 単行本	1	3	3	8	5	1	3	4	1	0	10	12	4	0	0	0	0	55	
翻訳: 章	0	0	41	106	3	6	8	7	6	13	59	1	6	1	0	0	0	257	
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	8	2	7	2	1	0	23	
書評	0	0	1	2	0	2	9	4	6	15	13	57	22	3	0	5	2	141	
参考: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	9	11	2	3	3	3	3	45	
参考: 発表: 一般	0	5	28	19	9	16	2	4	18	21	38	27	45	5	3	13	2	255	
合計(学会発表は除く)	6	20	158	247	138	190	249	288	334	489	505	422	341	69	20	46	26	3548	
体験過程療法	0	0	0	0	1	0	0	2	0	2	8	6	8	5	2	0	0	36	
フォーカシング指向心理療法 (含: 基礎概念)	0	0	0	0	0	2	5	4	5	17	37	18	7	29	0	0	0	124	
論文: 一般	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	5	21	2	0	0	3	2	37	
翻訳: 単行本	0	0	0	0	1	24	65	99	130	191	401	373	349	59	56	67	63	1878	
翻訳: 章	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5	5	8	3	0	2	0	0	26	
海外文献紹介	0	0	2	5	2	7	8	3	1	5	5	12	2	4	5	2	68		
書評	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	1	2	0	0	1	1	10	
参考: シンポ	0	0	0	0	1	0	1	0	5	6	16	21	13	17	5	8	2	95	
参考: 発表: 一般	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	7	6	17	2	5	4	3	50	
合計(学会発表は除く)	0	0	0	0	5	11	28	41	41	44	60	139	117	4	14	32	5	541	
ベリック・エンカウンターグループ (含: グループカウンセリング)	0	0	2	7	6	37	80	116	158	266	461	436	419	68	72	78	76	2274	
書籍: 単行本	0	1	0	1	0	1	2	1	4	3	2	4	5	1	0	0	0	25	
書籍: 章	0	0	1	1	4	19	16	15	30	29	14	4	10	1	0	0	1	145	
論文: 一般	0	0	0	0	0	3	0	1	8	1	4	2	2	0	1	0	0	20	
翻訳: 単行本	0	3	0	37	121	247	206	283	155	216	143	112	36	8	19	4	1590		
翻訳: 章	0	0	0	0	3	4	2	0	0	1	1	3	0	0	0	0	0	14	
海外文献紹介	0	0	0	0	1	2	0	1	2	4	4	4	0	0	0	0	0	14	
書評	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
参考: シンポ	0	0	0	0	2	0	1	2	13	3	6	7	5	2	0	0	0	41	
参考: 発表: 一般	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	3	6	6	1	2	2	1	26	
合計(学会発表は除く)	0	0	1	0	28	40	44	54	42	29	45	55	43	5	14	10	7	417	
その他 (教育・経営など)	0	0	1	4	2	46	149	270	226	339	195	247	167	132	41	8	19	5	1851
書籍: 単行本	0	0	0	4	2	2	0	0	3	1	4	7	7	2	1	0	0	33	
書籍: 章	0	0	0	2	0	0	2	0	5	6	3	1	11	1	0	0	0	31	
論文: 一般	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	
翻訳: 単行本	0	4	1	6	13	19	10	25	13	45	38	49	8	2	5	3	241		
翻訳: 章	0	0	0	1	1	0	3	1	0	3	1	1	1	0	0	0	0	12	
海外文献紹介	0	0	0	4	1	0	1	0	1	0	9	0	1	0	1	0	0	17	
書評	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
参考: シンポ	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	2	4	3	1	2	0	19	
参考: 発表: 一般	0	0	0	6	0	4	0	1	3	1	16	1	25	6	8	10	6	87	
合計(学会発表は除く)	0	0	4	13	10	15	26	12	34	20	69	49	75	15	5	7	3	357	
総計	6	21	168	269	200	391	625	642	865	970	1282	1074	967	193	105	150	110	8030	

(注) データは坂中による一連の「日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト」シリーズに基づいた。